

2022/09/05 (月)

朝の礼拝

聖書 サムエル記上 3章 1-10節 (旧約聖書432頁)

少年サムエルはエリのもとで主に仕えていた。そのころ、主の言葉が臨むことは少なく、幻が示されることもまれであった。ある日、エリは自分の部屋で床に就いていた。彼は目がかすんできて、見えなくなっていた。まだ神のともし火は消えておらず、サムエルは神の箱が安置された主の神殿に寝ていた。主はサムエルを呼ばれた。サムエルは、「ここにいます」と答えて、エリのもとに走って行き、「お呼びになったので参りました」と言った。しかし、エリが、「わたしは呼んでいない。戻っておやすみ」と言ったので、サムエルは戻って寝た。

主は再びサムエルを呼ばれた。サムエルは起きてエリのもとに行き、「お呼びになったので参りました」と言った。エリは、「わたしは呼んでいない。わが子よ、戻っておやすみ」と言った。サムエルはまだ主を知らなかったし、主の言葉はまだ彼に示されていなかった。主は三度サムエルを呼ばれた。サムエルは起きてエリのもとに行き、「お呼びになったので参りました」と言った。エリは、少年を呼ばれたのは主であると悟り、サムエルに言った。

「戻って寝なさい。もしまた呼びかけられたら、『主よ、お話してください。僕は聞いております』と言いなさい。」サムエルは戻って元の場所に寝た。

主は来てそこに立たれ、これまでと同じように、サムエルを呼ばれた。「サムエルよ。」サムエルは答えた。「どうぞお話してください。僕は聞いております。」

お話をください

サムエルはまだあどけない少年でした。幼い時から神殿に仕えるエリという祭司に預けられました。高齢のエリは目も不自由になり床に就いていました。サムエルはまだともし火の消えていない、神の箱が安置された主の神殿に寝ていました。

神様は夢の中で三度「サムエル」と呼びかけました。サムエルはエリが呼んだと思ってきますが、呼んでいませんでした。エリは三度目にサムエルを呼んだのは神様だと気づき『主よ、お話をください。僕は聞いております』と言いなさい』と言うのでした。

私たちはどうでしょうか。神様の呼びかけとは気づかないのはサムエルと同じですが、「どうぞお話をください。僕は聞いております」と神様の声に心を傾けているのでしょうか。まず私の願いを聞いてほしいという思いが浮かんでこないのでしょうか。

英和女学院は毎朝、礼拝で神様の言葉に耳を傾け、黙想ができます。中礼、終礼は教室で少年サムエル（絵があります）と一緒に神様に感謝できます。神様の呼びかけは、私たちの思いに先立つ神様の恵みです。神様の言葉には幸いがあふれています。

（しばらく黙祷しましょう）

わたしたちを呼びかけ続けてくださる主よ、あなたは私たちの思いに先立ち、私たちの思いを越えて良いものを用意され、歩むべき道へと導いてくださいます。どうかあなたの声に従い、あなたと共に歩む幸いを与えてください。どうか今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン